

## 序 言

大学院言語教育研究科の学術研究誌『言語と文明』第10巻を発行する運びとなりました。本年度は言語教育研究科博士課程（後期）の院生4名に課程博士の学位が授与されました。これは、論文指導に当たられた研究指導教授の主査を始めとする教授陣と執筆した院生たちの努力の結果であり、それら博士論文の「要旨」を本誌に掲載いたします。この『言語と文明』に掲載される論文は、複数の教員の厳しい査読を受けており、博士の学位を授与された論文も、この『言語と文明』に掲載された論文を敷衍拡大し深化させたものが少なくありません。ここに掲載された論文等が、内外の研究者に活用され、学術の進展に寄与することを願ってやみません。

2006年に生涯教育プラザの建物が落成し、「大学院開設10周年記念式典」が挙行政され、「言語教育研究科」は校舎3号棟から生涯教育プラザに移りました。その5階にある教員研究室と院生室には、関係者以外は入れないので、院生は専用の机やロッカー・印刷室等を利用して、研究に没頭することができます。院生室と、参考図書のあるブラウジング、1階のホワイエとプラザホールは、研究・息抜き・研究成果発表の場であり、本学の大学院は最新の設備に恵まれています。来月には、生涯教育プラザの真横に「Reitaku Student Plaza はなみずき」がオープンします。空から大きな2枚の葉っぱが舞い降りたように見える「はなみずき」には、食堂や売店、ブックセンターが入ることになっており、麗澤大学の院生の学習環境は一段と良くなることでしょう。

2011年3月11日に発生した東日本大震災のために、4月初めに予定されていた麗澤大学谷川セミナーハウスでの大学院宿泊オリエンテーションは中止となりましたが、言語教育研究科の学生や教職員ならびに教育施設に震災による被害はなく、通常通りに教育研究活動ができました。麗澤大学の学生と教職員有志が復興支援のためのボランティア活動に奔走されたのは頭のさがる思いです。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

言語教育研究科において多大な貢献をされ、ご定年を目前に逝去された石村喬教授（ドイツ言語文化特講、比較文明文化特別研究等を担当）のご功績に敬意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今年度末をもって定年退職される「日本語教育学専攻」の藤本幸夫教授（韓国語学特講等を担当）、「比較文明文化専攻」の岩見照代教授（日本言語文化演習等を担当）、奥野保明教授（ドイツ地域文化演習等を担当）、「英語教育専攻」の八代京子教授（異文化コミュニケーション原論等を担当）には、長年に亘り、数多くの院生に厳しくもきめ細かなご指導をして頂き、ここに厚く御礼申し上げ、今後益々のご健勝とご発展を祈ります。

最後になりましたが、本誌の刊行に尽力された編集委員会の岩佐委員長を始めとする皆様と関係各位に心より感謝申し上げます。

2012年（平成24年）3月

言語教育研究科長 石塚茂清